医薬品リスク管理計画
(RMP)

本資材はRMPの一環として位置付けられた資材です

プルヴィクト®静注による
治療を受ける患者さんとご家族の方へ

監修

小林　恭 先生　京都大学大学院医学研究科　泌尿器科学教室　教授
溝脇 尚志 先生　京都大学大学院医学研究科　放射線医学講座　放射線腫瘍学・画像応用治療学教室　教授
中本 裕士 先生　京都大学大学院医学研究科　放射線医学講座　画像診断学・核医学教室　教授



医療機関名：

担当医師名：

緊急連絡先：

ノバルティス ファーマ株式会社

PLU00001ZK0003
2026年11月改訂

目次

はじめに……3
前立腺がんの進行について……4
プルヴィクトによる放射性リガンド療法とは①……6
プルヴィクトによる放射性リガンド療法とは②……8
治療の対象になる方……10
PSMA陽性とは……12
プルヴィクトによる治療のスケジュール（治療全体）……14
プルヴィクトによる治療のスケジュール（各投与日）……16
プルヴィクトから放出される放射線について……18
入院時の所持品に関する注意点……20
投与後・入院中の注意事項……22
退院後の注意事項①……24
退院後の注意事項②……26
オムツ・導尿カテーテルを使用している場合の注意事項……27
プルヴィクトの主な副作用……28
その他の注意……29
注意すべき副作用：骨髄抑制、腎機能障害……30
その他の副作用……32
その他の注意について……34
参考……35
ご家族の方、周囲の方へ……36
治療の記録……38

はじめに

プルヴィクトによる放射性（ほうしゃせい）リガンド療法を受ける前立腺がん患者さんとご家族の方へ

前立腺がんはアンドロゲンという男性ホルモンを利用して増えるがんです。治療方法には手術やホルモン療法（内分泌療法）、放射線療法、化学療法などがあります。また、近年行われるようになった治療として、放射性リガンド療法（RLT※）があります。

プルヴィクトは、前立腺特異的膜抗原（PSMA）陽性の転移（てんい）を有する前立腺がんのお薬で、RLTに用いられるお薬のひとつです。

この冊子では、プルヴィクトによる治療を受ける患者さんへ、プルヴィクトの働きや治療スケジュール、放射線の影響や副作用について解説しています。

放射線と聞くと、被ばくについて不安に思う方もいらっしゃると思いますが、安心して治療を行うためには、治療について正しく理解することが大切です。わからない点や不安な点については、事前に医師や看護師、薬剤師などの医療スタッフに確認しましょう。

※ RLT：Radioligand（放射性リガンド） Therapy（療法）

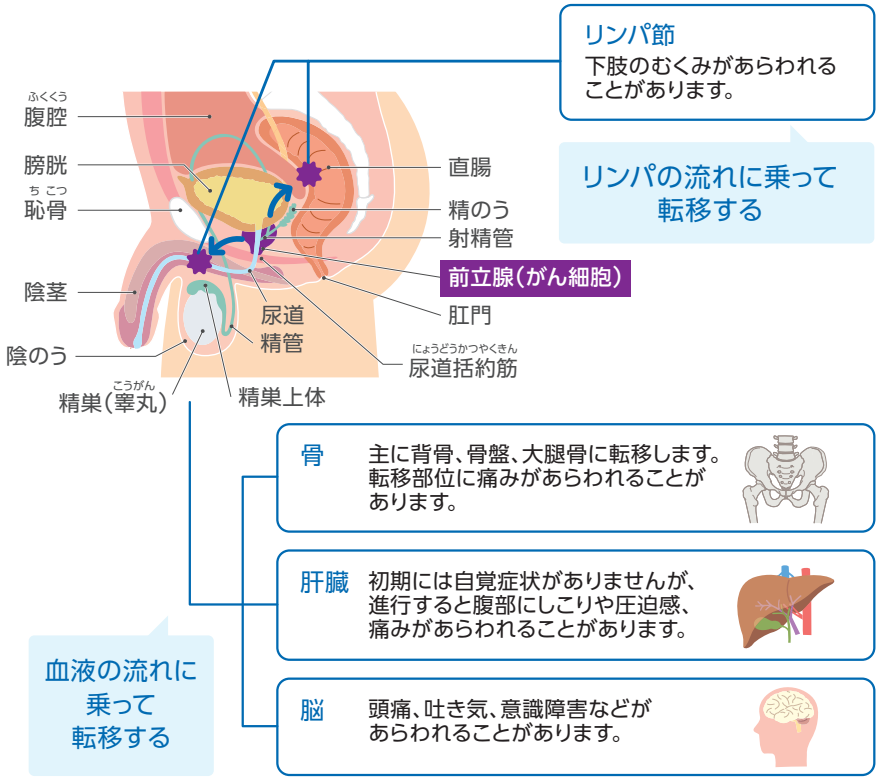
前立腺がんの進行について

前立腺がんは、遠隔転移することがあります。

●前立腺がんは、進行するとがんが周囲の臓器に広がり、局所再発や転移（遠隔転移※）することがあります。

※ がんがはじめに発生した場所（前立腺）から離れた臓器や組織にがん細胞が移動し、増殖すること。

前立腺がんの転移



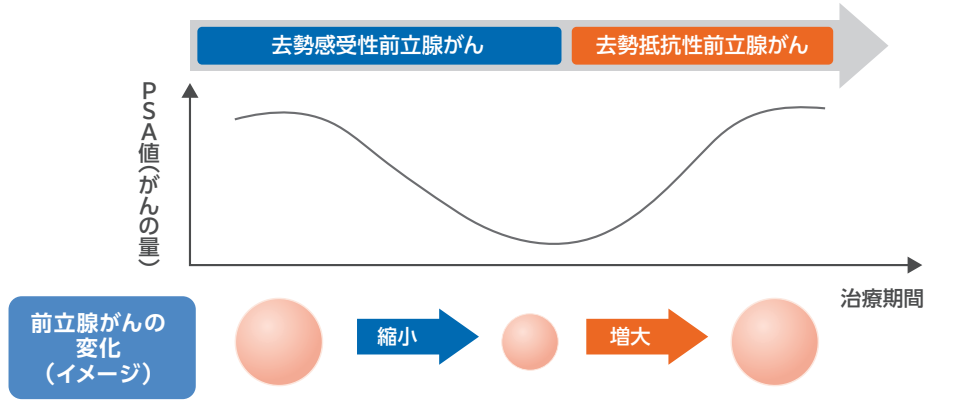
前立腺がんの進行には、アンドロゲンがかかわっています。

●前立腺がんの進行にはアンドロゲンがかかわっているため、手術やホルモン療法などによってアンドロゲンの分泌や働きを妨げ（去勢）、前立腺がんが大きくなったり、転移したりするのを抑えます。その結果、PSA（前立腺特異抗原）の数値も低くなります。

●このようなアンドロゲンを抑える治療が有効な状態の前立腺がんを「去勢感受性前立腺がん」といいます。

●アンドロゲンを抑える治療を続けていると、去勢状態であるにもかかわらず、PSAの数値が上昇したり、がんが大きくなったりして、落ちついていた病状がぶり返すこと（再燃）があります。このような状態の前立腺がんを「去勢抵抗性前立腺がん」といいます。

前立腺がんの進行とPSA値の変化（イメージ）



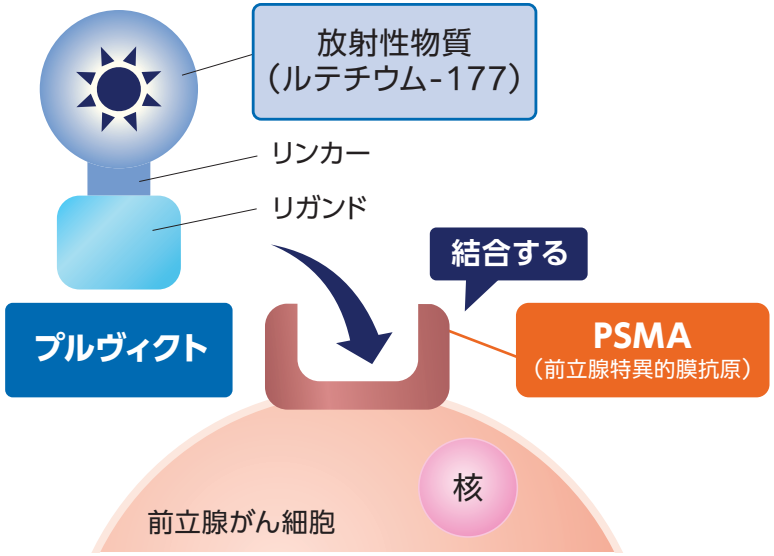
がんがみえる，医療情報科学研究所 編，メディックメディア社，東京，2022，p.472 を参考に作図

プルヴィクトによる放射性リガンド　療法とは①

プルヴィクトは、放射性リガンド療法で使うお薬です。

- プルヴィクトは、放射性リガンド療法のお薬です。
- 放射性リガンド療法は、放射線をからだの外側からあてる通常の放射線療法とは異なり、からだの中で放射線をがん細胞に照射する治療です。
- 放射性リガンド療法は、放射線を放出するお薬を投与して、からだの中で放射線をがん細胞に照射し、がん細胞を攻撃します。
- プルヴィクトなどの放射性リガンド療法に用いるお薬は、がん細胞の表面に存在している特有のタンパク質を目印（標的）としてがん細胞に結合します。

プルヴィクトの働き（イメージ）



プルヴィクトは、前立腺がん細胞に多く発現するPSMAを標的とします。

- プルヴィクトは、放射線を放出する放射性物質（ルテチウム-177）とリガンドがリンカーという部分でつながった構造をしています。
- リガンドは、からだの中で特定のタンパク質に結合し、お薬をがん細胞に届ける役目をします。プルヴィクトのリガンドは、前立腺がんの細胞表面に多く存在するPSMA（前立腺特異的膜抗原）というタンパク質と結合します。

プルヴィクトによる放射性リガンド療法は、からだの中で放射線を前立腺がん細胞に照射する治療です。

プルヴィクトは、リガンドと放射性物質からできています。

リガンドがPSMAに結合することで、お薬を前立腺がん細胞に届けます。

放射性物質が前立腺がん細胞を攻撃します。

詳しくはp.8~9をご参照ください。

プルヴィクトによる放射性リガンド　療法とは②

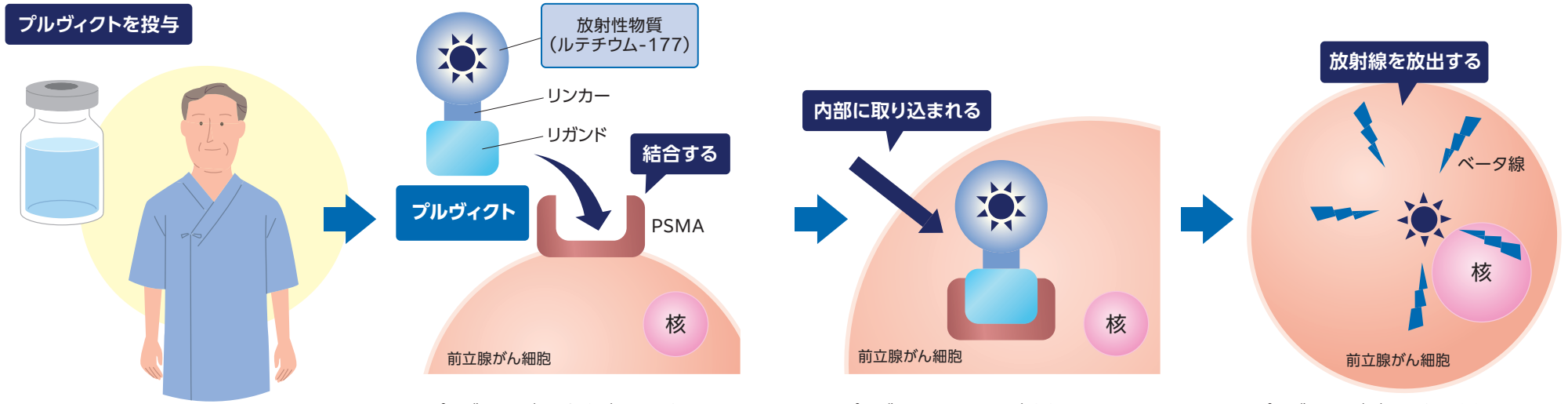
プルヴィクトが放射線を放出することで前立腺がん細胞　を攻撃します。

●プルヴィクトは、前立腺がんの細胞表面のPSMAと結合し、がん細胞の内部に取り込まれ、ベータ線およびガンマ線という放射線を放出します。

●プルヴィクトはPSMAが細胞表面にない正常細胞には結合せず、前立腺がん細胞にのみ結合するため、治療効果を最大限に引き出し、正常細胞が傷つくことで生じる副作用を抑えることが期待できます。体内でベータ線が届く距離は最大2.2mm（平均1mm未満）と短いため、正常細胞への影響は少ないと考えられます。

ガンマ線についてはp.18をご参照ください。

プルヴィクトの働き（イメージ）



プルヴィクトが、前立腺がんの細胞表面のPSMAと結合します。

プルヴィクトとPSMAが結合すると、前立腺がん細胞の内部に取り込まれます。

プルヴィクトががん細胞の内部でベータ線、ガンマ線という放射線を放出し、ベータ線が前立腺がん細胞を攻撃します。

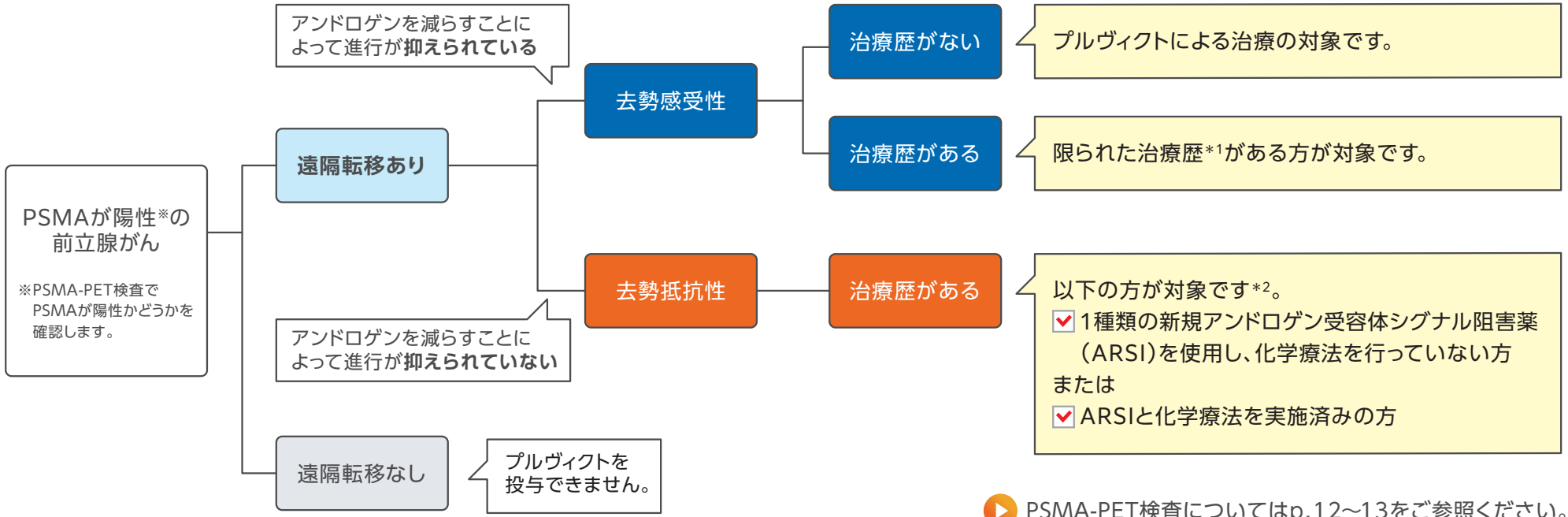
治療の対象になる方

プルヴィクトによる治療は、PSMAが陽性の遠隔転移を有する前立腺がんの患者さんが対象になります。

- 去勢感受性の場合は、治療歴がない患者さんが対象ですが、治療の内容によっては、プルヴィクトによる治療の対象になる場合もあります。
- 去勢抵抗性の場合は、治療歴がある患者さんがプルヴィクトによる治療の対象になります。
- 医師があなたの治療歴を確認し、プルヴィクトを投与できるかどうかを判断します。

注意　腎機能障害のある方は治療前に申し出てください。

プルヴィクトによる治療の対象になる方



PSMA-PET検査についてはp.12〜13をご参照ください。

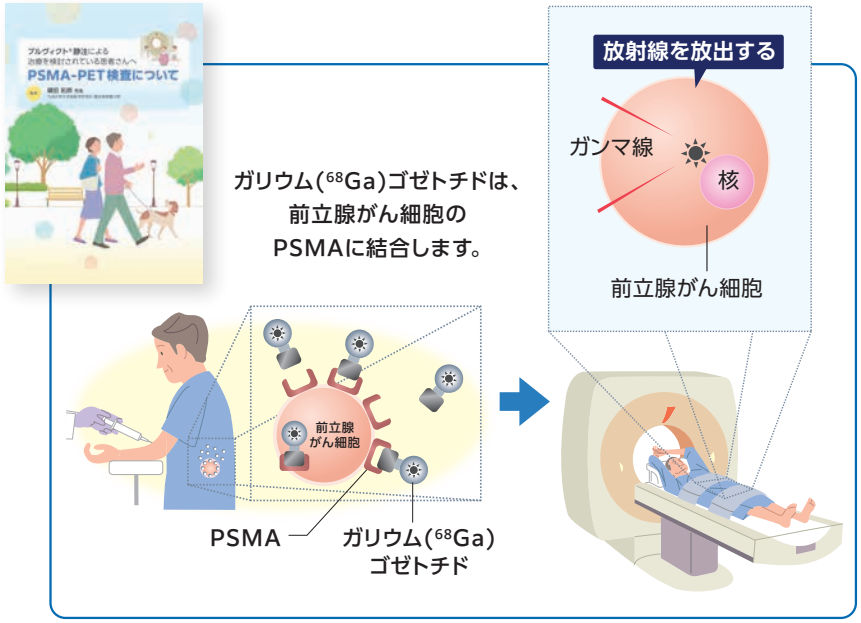
*1 治療歴については、医師にご確認ください。
*2 遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺がんに進行する以前に、去勢感受性前立腺がんの治療としてARSIやARSIと化学療法を使用されていた方も対象となります。

PSMA陽性とは

●PSMA陽性とは前立腺がん細胞の表面にPSMAが存在している状態のことをいいます。プルヴィクトによる治療を開始する前に専用の検査（PSMA-PET検査）を行い、PSMAが陽性であることを確認した後に治療を行います。

PSMA-PET検査

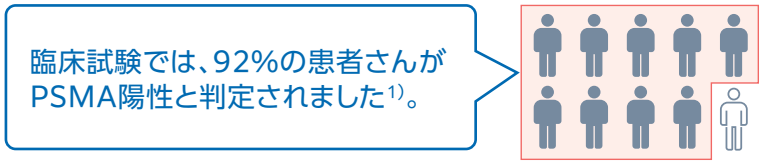
プルヴィクトの投与前に、PSMAが陽性かどうかをPSMA-PET検査で確認します。
PSMA-PET検査については、別途ご用意している冊子をご参照ください。



イメージ図

参考：PSMA について

臨床試験では、92%の患者さんがPSMA陽性と判定されました[1)]。



イメージ図

1)Morris MJ, et al.: Lancet. 2024; 404(10459): 1227-1239
[利益相反:本試験はノバルティスの支援により実施された。著者にはノバルティス社員、安全性データモニタリング又はアドバイザリーボードの参加者、同社より研究資金等を受領している者が含まれる]

プルヴィクトによる治療のスケジュー ル(治療全体)

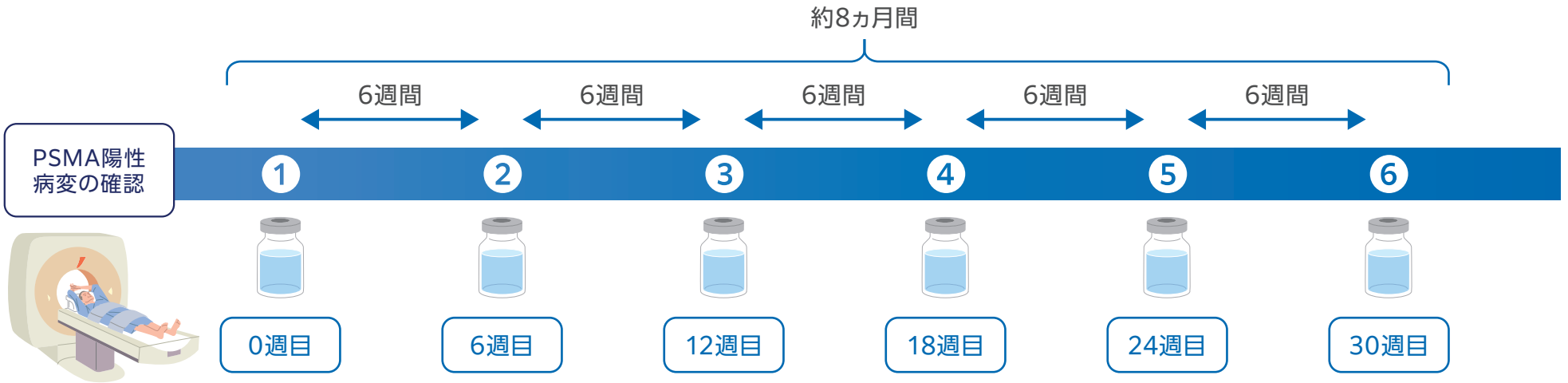
プルヴィクトは、6週間ごとに最大6回投与し、治療期間は 約8ヵ月間です。

- プルヴィクトは、6週間ごとに最大6回投与します。全体の治療期間は約8ヵ月間となります。
- 去勢感受性の患者さんがプルヴィクトを投与する場合は、ARSIを併用します。
- 副作用があらわれた場合は、投与を中断したり、プルヴィクトを減量したりすることがあります。
- 副作用による中断が4週間を超えた場合は、プルヴィクトの投与中止を検討します。また、2回以上の減量が必要となる副作用があらわれた場合は、プルヴィクトの投与を中止します。

注意

- ☑ プルヴィクトは患者さんごとに製造されるため、投与スケジュールの調整については医師とよく相談してください。
- ☑ 投与日に間に合うよう、十分な配慮のもと生産・輸送していますが、天災やその他供給上の問題により、投与日がずれることもあります。

プルヴィクトによる治療全体のスケジュール

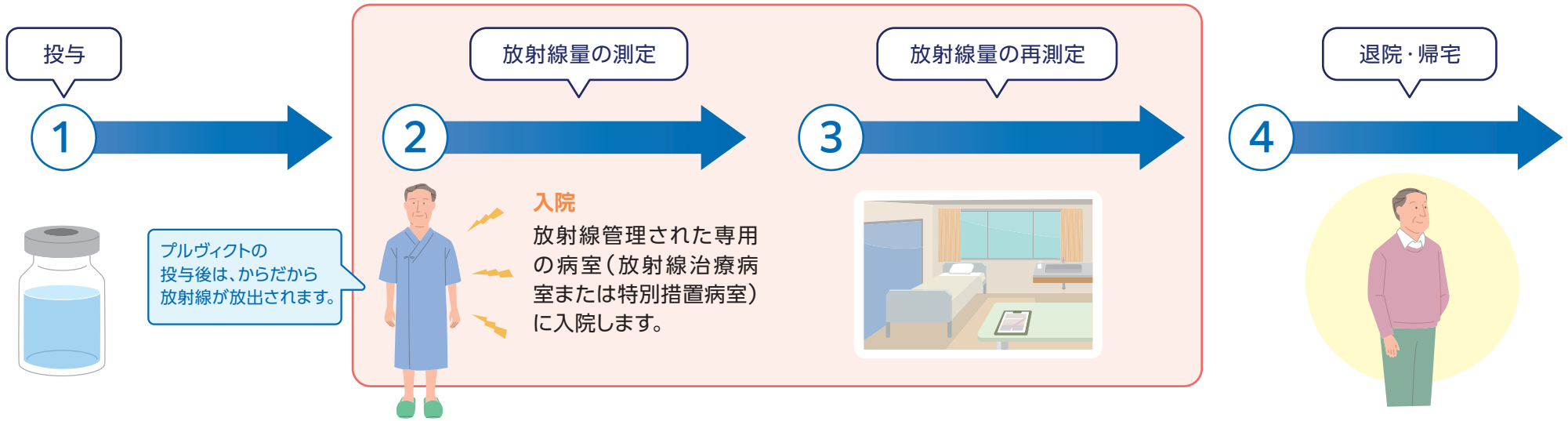


プルヴィクトによる治療のスケジュール（各投与日）

プルヴィクトの投与後、からだから放出される放射線量を測定し、一定基準以下になるまで入院します。放射線量が医療法で定められた放射線量まで低下すれば退院できます。

- プルヴィクトの各回における投与の流れは以下のとおりです。
- プルヴィクトを投与すると、からだから放射線が放出されます。汗や尿にも放射性物質が含まれます。周囲の方への影響を避けるため、からだから放出される放射線量が医療法で定められた放射線量に低下するまで専用の病室（放射線治療病室または特別措置病室）に入院します。
- 個人差がありますが、滞在する期間は約1～2日です。
- また、プルヴィクトの投与後は、注意事項を守りながら過ごしていただく必要があります。

プルヴィクトの投与の流れ



プルヴィクトから放出される放射線　について

プルヴィクトから放出されるガンマ線は、からだの外に出るため、注意が必要です。

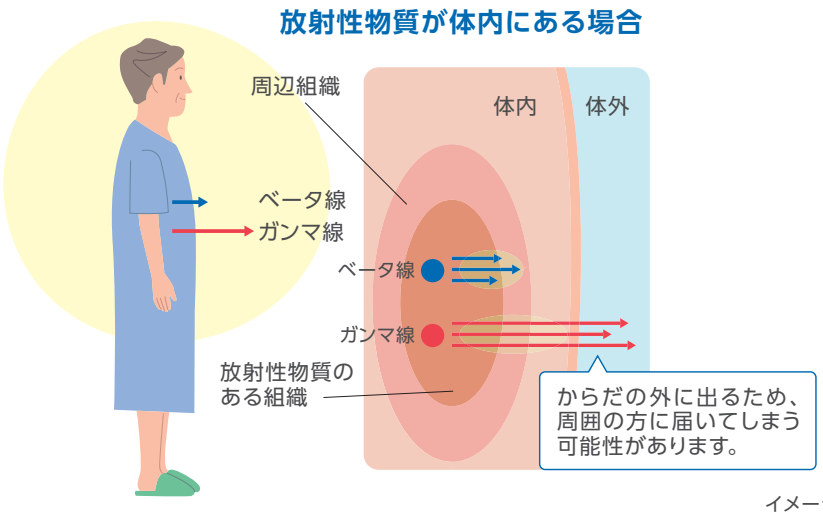
- プルヴィクトは、ベータ線およびガンマ線という2種類の放射線を放出します。
- ベータ線は飛距離が短く、ほとんどからだの外へ出ませんが、ガンマ線が届く距離はベータ線よりも長く、からだの外に出てしまいます。そのため、周囲の方にも届く可能性があります。
- 周囲の方への影響を最小限に抑えるために、プルヴィクトの投与後7日間は適切な距離を保って過ごしましょう。

患者さんご自身と周囲の方が、放射線の被ばくと汚染について正しく理解し、被ばくを最小限に抑えることが大切です。

- **プルヴィクトの投与後は、患者さんご自身だけでなく、周囲の方に対する注意も必要です。**
- 介護が必要な方にプルヴィクトを6回投与した場合、介護者が受ける放射線量は約2mSv（ミリシーベルト）と考えられています[1)]。これは、1回のCT検査で被ばくする放射線量よりも少ない数値です[2)]。また、普段の生活の中でも自然界から年間約2mSv被ばくしていると考えられています[2)]。

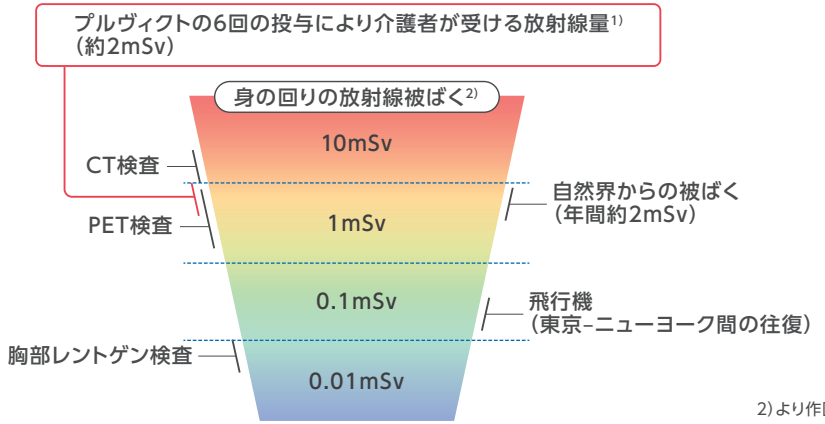
投与後の注意はp.20～27をご参照ください。

プルヴィクトによるからだの中での放射線照射（イメージ）



イメージ図

プルヴィクトによる治療の被ばく量の目安



2)より作図

1）日本医学放射線学会等 ルテチウムビピボチドテトラキセタン(Lu-177)注射液を用いる核医学治療の適正使用マニュアル(第1版)
2）国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所 放射線被ばくの早見図 https://www.qst.go.jp/uploaded/attachment/22422.pdf（2026年9月アクセス）

入院時の所持品に関する注意点

放射性物質の汚染を避けるため、入院時の所持品を最小限にしましょう。

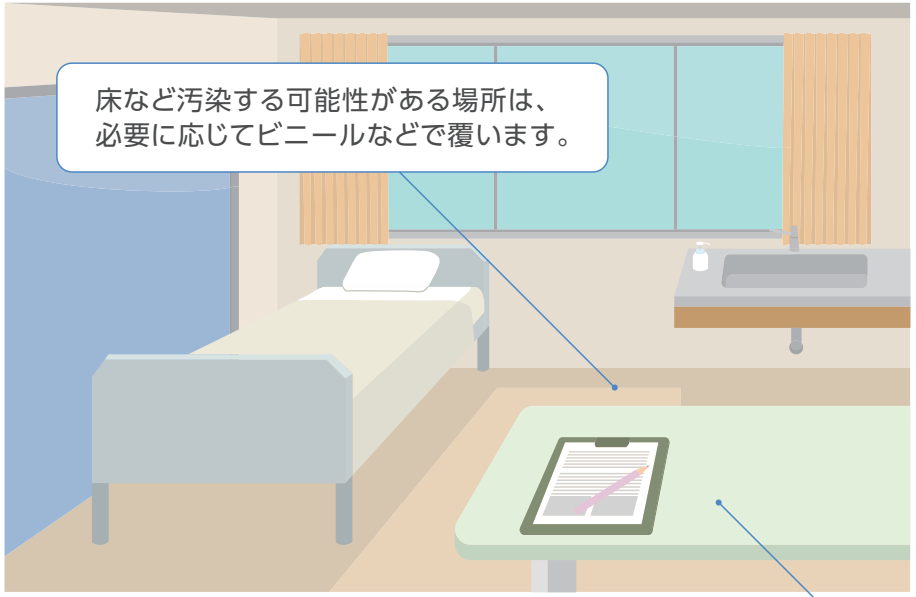
入院時の所持品に関する注意点

- ☑ 放射性物質がつくのを避けるため、所持品は最小限にしてください。
- ☑ 歯ブラシ、くし、化粧品といった洗面・衛生用品などは使い捨てのものを使用してください。
- ☑ 来院時に着ていた衣類、靴、バッグなどを持ち込む場合はビニール袋に入れて保管してください。
- ☑ 持ち込んだ所持品に放射性物質がついた場合、すぐに持ち帰ることができません。放射線量が下がるまで保管し、後日、放射線量の低下が確認された際に持ち帰ることができます。



施設により運用が異なるため、詳しくは医療スタッフにご相談ください。

放射線管理された専用の病室（イメージ）



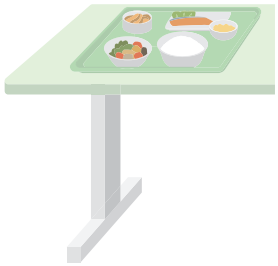
病室での過ごし方についてはp.22～23をご参照ください。

投与後・入院中の注意事項

プルヴィクトの投与後、病室内では、以下の点に注意　して過ごしてください。

病室内での行動制限について

- からだから放出される放射線量が医療法で定められた放射線量に低下するまでは、病室から出ることができません。
- お薬や食事の受け渡しは、病室内の所定のテーブルで行います。
- 入浴やシャワーの使用は原則できません。
- 面会は原則として禁止です。



病室でのトイレについて

プルヴィクトは投与後、主に尿中に排泄されるため、排尿の際には注意してください。

- 糞便はトイレに流すことができます。
- 排尿は座って行い、フタを閉め、2回流してください。病室によっては蓄尿容器などへためていただく場合があります。
  （詳しくは医療スタッフの説明を受けてください。）
- 尿が手指につかないように十分注意してください。万が一ついた場合は、石けんでよく洗ってください。



放射性物質がついた場合について

血液などの体液や便にも放射性物質が含まれている可能性があるため、注意が必要です。

- 血液、排泄物が皮膚についた場合は、必ず石けんでよく洗ってください。
- これらが衣服についたり、床にこぼれたりした場合は、速やかに医療スタッフに伝えてください。

水分の摂取について

- 医師と相談して、適切な量の水分を摂取してください。
- 排尿を促すことで、前立腺がん細胞内に取り込まれなかったプルヴィクトが排泄されやすくなります。



施設により運用が異なるため、詳しくは医療スタッフにご相談ください。

退院後の注意事項①

周囲の方への影響を避けるため、退院後もしばらくは日常生活での注意が必要です。

投与後3日間は注意してください。

トイレ

- 排尿は座って行ってください。
- 排尿後はフタを閉め、2回流してください。

入浴

- 入浴は、他のご家族のあとで最後に行い、入浴後の浴槽は洗剤を用いてブラシなどでよく洗ってください。

洗濯物

- 洗濯は、他のご家族の衣類とは別にしてください。
- 特に血液や尿、嘔吐物（おうとぶつ）がついたシーツや下着は十分に予洗いを行ってください。



その他

- 血液などの体液、排泄物、嘔吐物が皮膚についたときは、すぐに石けんで洗い、十分にすすいでください。
- 血液や排泄物、嘔吐物が床にこぼれたときは、トイレットペーパーできれいに拭き取り、トイレに流してください。
- 血液や排泄物、嘔吐物で汚染されたものに触る場合は、ゴム製の使い捨て手袋を着用してください。
- できるだけ水分を多く摂取してください。

※目安となる水分量については医師と相談してください。

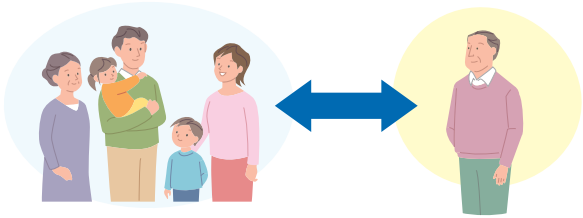




投与後7日間は注意してください。

家での過ごし方

- ご家族とは少なくとも1m、長く接するときは2m以上離れてください。
- 特に小児や妊婦との接触は最小限にしてください。
- 性行為は禁止してください。
- 他の人と同じベッドで就寝しないでください。可能であれば別室で就寝することが望ましいですが、同室で就寝する場合は2m以上離れてください。



外での過ごし方

- 公共の場（ショッピングセンター、映画館、レストラン、スポーツ観戦など）への外出はできるだけ控えてください。
- 公共交通機関を利用する際は、以下に注意してください。
  - ・他の人との距離を1m以上あけてください。
  - ・同じ場所に6時間以上留まらないでください。
  - ・タクシーを利用する場合は、運転手からできるだけ離れて座ってください。

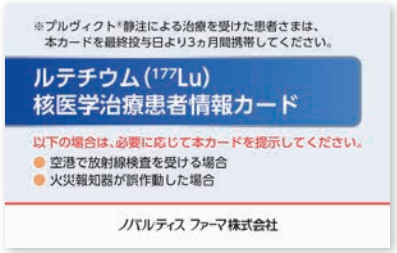


退院後の注意事項②

周囲の方への影響を避けるため、
退院後もしばらくは日常生活での注意が必要です。

投与後3ヵ月間は注意してください。

●投与後3ヵ月間は、放射線検査が行われる空港などを利用する際に診療証明書を携帯してください。



注意 ☑ 空港のセキュリティチェックや、病院・デパートなどの火災報知器が反応することがあります。(プルヴィクトと同じような放射性医薬品の投与後に、火災報知器の誤作動の報告があります。)

投与後14週間は注意してください。

●投与後14週間は避妊してください。

オムツ・導尿カテーテルを使用している場合の注意事項

プルヴィクトの投与後は尿に放射性物質が含まれます。
オムツ・導尿カテーテルを使用している患者さんでは
その取扱いにご注意ください。

投与後3日間は注意してください。

日常生活での注意

●オムツ・導尿カテーテル・蓄尿バッグを扱うときは、ゴム製の使い捨て手袋を着用してください。
●オムツを使用する患者さんには、ビニール製シーツの使用をお勧めします。
●導尿カテーテルを使用する場合は、蓄尿バッグ中の尿はトイレに捨て、フタを閉めて水を2回流し、処理後は石けんで手をよく洗ってください。



廃棄のときの注意

●オムツはビニール袋に入れ、内容物が漏れないように封をしてください。
●一般ゴミとして処理してください。
なお、必要に応じてお住まいの自治体の廃棄方法に従ってください。



プルヴィクトの主な副作用

プルヴィクトを投与すると、
以下のような副作用があらわれることがあります。

投与後にあらわれる可能性のある副作用

注意すべき副作用

- 骨髄抑制（こつずいよくせい） (p.30)
- 腎機能障害 (p.31)

その他の副作用

- 味覚不全（味覚の変化） (p.32)
- 口内乾燥 (p.32)
- 悪心（おしん）（吐き気）、嘔吐（おうと） (p.33)
- 下痢、便秘 (p.33)
- 疲労、食欲減退 (p.33)

- ☑ 副作用には個人差があります。また、ここに取り上げた症状がプルヴィクトのすべての副作用ではありません。
- ☑ 副作用があらわれた場合は、投与を中断したり、プルヴィクトを減量したりすることがあります。
- ☑ 気になる症状があれば、医師や看護師、薬剤師などの医療スタッフにご相談ください。

その他の注意

他にも、以下のような注意があります。

その他の注意

- 二次性悪性腫瘍 (p.34)
- 頭蓋内出血 (p.34)



注意すべき副作用：骨髄抑制、腎機　能障害

骨髄抑制があらわれることがあります。

●骨髄は血液をつくる臓器です。細胞分裂が盛んで、放射線の影響を受けやすい組織です。骨髄の働きが低下すると、血液中の白血球や血小板の減少、貧血などがあらわれることがあります。

特にこのような症状があらわれましたら、医師にご相談ください。



白血球[*1]の減少による感染症
発熱、のどの痛み、さむけ　など



血小板[*2]の減少による出血傾向
青あざができる、歯ぐきや鼻から出血する　など



赤血球[*3]の減少による貧血
めまい、立ちくらみ、爪の色が白くなる、ふらつき、頭痛、息切れ　など

＊1 白血球…細菌やウイルスからからだを守る ＊2 血小板…血を固める ＊3 赤血球…からだの中に酸素を運ぶ

発現時期　プルヴィクトの投与後**約2～3ヵ月**

対策・対処法

- ☑ 治療期間中は、定期的に血液検査を受けてください。
- ☑ 感染症の予防のため、以下を心がけましょう。
  ・手洗いやマスクの着用を心がけましょう。
  ・人ごみを避け、混雑した場所に行くことは避けましょう。
- ☑ 血小板が減少していると、転倒したときに大きな出血を引き起こす可能性があります。めまいや立ちくらみがした場合はその場にしゃがみ、症状が落ちつくまで待ちましょう。





腎機能障害があらわれることがあります。

●プルヴィクトは腎臓を通って尿中に排泄されます。そのため、腎臓が放射線の影響を受け、腎機能障害があらわれることがあります。

特にこのような症状があらわれましたら、医師にご相談ください。



尿量が少なくなる、ほとんど尿が出ない、
一時的に尿量が多くなる　など



むくみ



発疹



からだがだるい

発現時期　プルヴィクトの投与後**約2ヵ月**

対策・対処法

- ☑ プルヴィクトの投与前後は、十分な水分補給と排尿を行ってください。
- ☑ 症状があらわれない場合もあります。治療期間中は、定期的に血液検査・尿検査を受けてください。



その他の副作用

他にも、以下のような症状があらわれることがあります。



味覚不全（味覚の変化）

症状　食べ物の味を感じにくくなる、苦味や金属のような味を感じる、本来の味とまったく異なった味に感じる、砂をかむような食感になる　など

対策・対処法

- ☑ 口内の清潔とうるおいを保ちましょう。
- ☑ 食後や就寝前に歯みがき、うがいを行い、舌へのブラッシングも行いましょう。
- ☑ 口内が乾燥している場合は、「口内乾燥」の項目をご参照ください。
- ☑ 味覚とからだの中の亜鉛や鉄の量が関係するといわれているため、飲み薬が処方されることがあります。



口内乾燥

対策・対処法

- ☑ 水やうがい薬で口をすすぎ、歯みがき、うがいを行いましょう。
- ☑ 水で濡らしたガーゼで口をぬぐい、必要に応じて口腔保湿剤を使いましょう。

気になる症状があれば、医師や看護師、薬剤師などの医療スタッフにご相談ください。

プルヴィクトの投与後、数ヵ月の間は気をつけましょう。



悪心（吐き気）、嘔吐

症状　吐き気、胃がむかむかする、胸やけ、嘔吐　など

対策・対処法

- ☑ においにより悪心、嘔吐を引き起こすことがあるため、においの強いものは周りに置かないようにしましょう。
- ☑ 食べたいときや食べられそうなときに、食べたいもの、食べやすいものを食べましょう。
- ☑ 少量ずつ、数回に分けて食べましょう。
- ☑ 吐き気止めのお薬（制吐剤）を使用することもできますので、医師に相談しましょう。



下痢、便秘

下痢の症状　腹痛、水のような便が出る、泥状のゆるい便が出る　など
便秘の症状　便やおならが出にくい、吐き気、嘔吐、お腹が張る、腹痛など

対策・対処法

- ☑ 水分摂取を心がけましょう。
- ☑ 整腸剤、下痢止めのお薬（止痢剤）、下剤を使用することもできますので、医師に相談しましょう。



疲労、食欲減退

対策・対処法

- ☑ 楽な姿勢で休息をとりましょう。
- ☑ 食べたいときや食べられそうなときに、食べたいもの、食べやすいものを食べましょう。
- ☑ 少量ずつ、数回に分けて食べましょう。

その他の注意について

二次性悪性腫瘍があらわれることがあります。

●二次性悪性腫瘍とは、化学療法や放射線療法による正常細胞へのダメージが原因で、もとの病気とは異なる新たながんが発生することをいいます。
プルヴィクトの投与による放射線の影響で、二次性悪性腫瘍が発生するリスクが高まる可能性があります。

頭蓋内出血があらわれることがあります。

●臨床試験では頭蓋内出血の報告がありましたが、プルヴィクトの投与に関連したものかどうか定かではありません。

参考

冊子について

●プルヴィクトを使用した治療は、高額療養費制度の対象となる可能性があります。詳しくはお住まいの地域の窓口でご相談ください。高額療養費制度についての冊子もご用意しておりますので、ご参照ください。
●放射性リガンド療法について漫画でご説明した冊子もご用意しております。ホームページにも掲載しておりますのであわせてご参照ください。

ホームページについて

●プルヴィクトを使用する患者さん向けのホームページもございますので、ご参照ください。

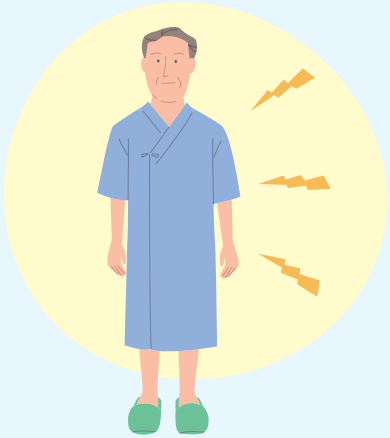
プルヴィクト®静注による治療を受ける患者さんとご家族の方へ

https://www.product.gan-kisho.novartis.co.jp/pluvicto

ご家族の方、周囲の方へ

ご家族や周囲の方が、放射線の被ばくと汚染について正しく理解し、被ばくを最小限に抑えることが大切です。

- プルヴィクトの投与を受けた患者さんは、からだから放出される放射線量が医療法で定められた放射線量に低下するまで、多くの場合、1～2日程度入院します。しかし、退院後も患者さんのからだから放射線が放出されています。
- ご家族や周囲の方も被ばくする可能性があり、被ばくを最小限に抑えるためには投与後7日間は日常生活での注意が必要です。
- p.19でお示ししたように、介護が必要な方にプルヴィクトを6回投与した場合、介護者が受ける放射線量は約2mSv（ミリシーベルト）と考えられています。これは、1回のCT検査で被ばくする放射線量よりも少ない数値です。普段の生活の中でも自然界から年間約2mSv被ばくしていると考えられています。



患者さんの退院後、しばらくは日常生活での注意が必要です。プルヴィクトを投与された患者さんと過ごす際は、以下の点に注意してください。

投与後3日間

- 入浴の際は、患者さんよりも先に入ってください。
- 洗濯は、他のご家族の衣類と患者さんの衣類を別にしてください。
- 患者さんの血液などの体液、排泄物、嘔吐物が皮膚についたときは、すぐに石けんで洗い、十分にすすいでください。
- 患者さんの血液や排泄物、嘔吐物が床にこぼれたときは、トイレットペーパーできれいに拭き取り、トイレに流してください。
- 患者さんの血液や排泄物、嘔吐物で汚染されたものに触る場合は、ゴム製の使い捨て手袋を着用してください。

投与後7日間

- 患者さんとは少なくとも1m、長く接するときは2m以上離れてください。
- 特に患者さんと小児や妊婦の接触は最小限にしてください。
- 性行為を禁止してください。
- 患者さんと同じベッドで就寝しないでください。可能であれば別室で就寝することが望ましいですが、患者さんと同室で就寝する場合は2m以上離れてください。

投与後14週間

- 投与後14週間は避妊してください。

治療の記録

投与予定日を記入しておきましょう。(投与日は原則として変更できません。)
また、投与後に気づいたこと／気になる症状や受診時に相談したいことなどがあればメモしておきましょう。

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
投与予定日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
投与実施日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
投与量 ※投与量が不明な場合は、医療スタッフに確認してください。	GBq	GBq	GBq	GBq	GBq	GBq
気づいたこと／気になる症状						
次の受診日に相談したいこと						